

図書館展示 1月●2005

かわいいもろな楽譜と こわれていく本

資料の保存と利用

図書館の資料はみんなの財産です。
現在、そして未来の利用者のためのものです。
しかし、不用意な扱いをすると、本や楽譜は
使えなくなります。繰り返し使われる資料の
寿命は、みなさんの扱い方しだいです。

資料を大切に扱いましょう。

期間●1月12日～3月18日
場所●図書館ブラウジングルーム

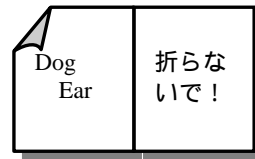
楽譜・本の取り扱いガイド

資料の取り扱いマナー

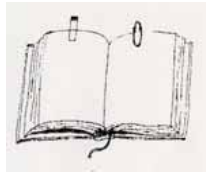
書き込みをしないで
ください。



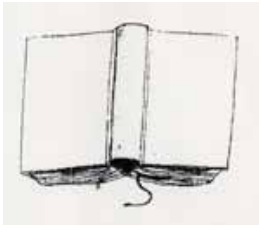
ページの角を折らないで
ください。



ポストイット、しおり、
クリップなどをはさんだまま
おかないでください。



楽譜や本は、開いたまま
ふせないでください。



無理に押しつけて
コピーをしないでください。



飲食をしながら
本を読んだり CD や DVD を
視聴したりしないでください。



雨の日はかばんやビニール袋に
入れて保護してください。



紙の豆知識-----酸性紙、中性紙、再生紙

Q:「酸性紙」、「中性紙」とは何ですか?

A: 普段私たちが読んでいる本に使われている紙は、木材パルプを原料としています。

酸性紙とは、1850年代以降に、製紙の過程で、にじみ止めの定着材として硫酸アルミニウムを使用した紙を指します。紙自体に含まれる酸によって紙の繊維が食い荒らされ、数十年でボロボロになってしまいます。この現象を酸性劣化* といいます。図書館にある近代の紙資料の多くが酸性紙を使っているため、その対策が課題となっています。

一方、中性紙は、硫酸アルミニウムに代わり、にじみ止めとしてアルキルケテンダイマー等を使っています。酸性劣化は生じないため、長期保存用の書籍や文書の用紙に適しています。

日本では1980年代後半から出版物の本文用紙の中性化が進んでいます。国立国会図書館が毎年行っている新刊図書のパH値測定調査によると、1990年以降は民間出版物の80%前後が中性紙を使用するにいたっています。一方、官庁・地方自治体の出版物では、1997年までは50%以下と低い値を示していたが、近年では70%を超える値を示すようになってきています。

*一口メモ

「酸化」と「酸性化」の違いは?

まぎらわしい言葉ですが、「酸化」と「酸性化」は違うものです。学校の理科の時間に習ったことを思い出して下さい。「酸化」は物質が酸素と化合することです。「酸性化」は溶液が酸性に変わる事、あるいは溶液の酸性の度合いが増すことです。すなわち、2つは別の化学現象です。資料保存でいう酸性紙や脱酸処理の場合の「酸」は、硫酸などの「酸」と同じで酸素とは関係がありません。ですから、空気(酸素)がなくても「酸」による劣化は進みます。

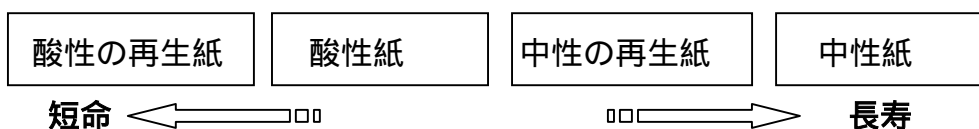
ところで「酸化」と「酸性化」が混同されやすいことには、もう1つ理由があります。紙に含まれている「酸」は紙の劣化の主な要因ですが、実は空気中に含まれる酸素による「酸化」によっても紙は劣化するという点です。それで話が混線しやすくなるのです。それでも紙の「酸による劣化」と「酸化による劣化」が異なることはしっかり理解しておきましょう。

Q:「再生紙」とはどんな紙ですか?

A:「再生紙」とは、古紙をリサイクルしてつくった紙のことです。身近なところでは、コピー用紙、ノート、トイレトペーパーなどに使われています。紙はリサイクルを繰り返すと、強度が落ちてきます。「再生紙」は、普通の紙に比べ、生まれつき弱い紙と言えます。

「再生紙」にも「酸性紙」と「中性紙」があります。「中性の再生紙」には、中性紙を再利用したものと、回収した酸性紙を中性紙に作りかえたものがあります。

一般的に、「中性の再生紙」は「酸性紙」よりは、長持ちすると言われていています。それぞれの紙の寿命についてまとめると以下の通りです。



図書館展示

2005.1.12~ 3.18

かわいそうな楽譜と
こわれていく本
資料の保存と利用

「資料の保存と利用」プロジェクト（杉岡わか子・染谷周子・樋口眞規子）
2005.1.12 国立音楽大学附属図書館 広報委員会（染谷周子・高田涼子）